

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773600061		
法人名	医療法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム オアシス		
所在地	沖縄県島尻郡南風原町字新川452番地の1		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4773600061-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、首里城の南東側を望み、遠くは渡嘉敷島を展望でき、眼下は高速那覇インターを見下ろせる場所に位置しています。利用者様の想いを大切に、家族との絆を大切にしながら、ゆったりとした心地よい居場所を提供できるよう明るく元気なスタッフが支援しています。医療法人を母体とし、各種の相談・支援及び、行事等の開催など多くの連携があります。施設内も明るく、38メートルの廊下での歩行練習や階下でのカラオケの利用など、行動範囲を広く生活を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の海が見渡せる高台に、医療法人を母体とする施設で、同敷地内には病院や有料老人ホーム等があり、階下の通所介護サービス事業所とも一緒に、盆踊り祭りや合同運動会等に、全利用者と家族や親戚も参加し、交流を図り、年2回家族会が開催されている。利用者の思いに耳を傾け、プロ野球観戦や、ヒーシャーオーラセー(山羊闘い観戦)等利用者全員が希望する場所へ出掛けられる様支援に取り組んでいる。隣接する病院の医師や看護師と連携を図り、利用者の健康管理に努めている。ローテーションで担当職員が3か月毎に、介護計画の案とモニタリングを行い、情報を共有し支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者も職員も「お互いに助け合う」グループホームを目指して、安全で安心して生活できる環境づくりに努めています。視認できる場所に理念を掲げ、申し送りの際に唱和をして職員間で意識を高めています。	理念の共有と実践については、開設時に作成した理念を、7年前に全職員で見直しを行い、継続することを確認している。地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、事務所や居間に掲示し、職員は朝昼2回申し送り時に唱和している。「大切にします あなたの想い」と言う理念に沿った利用者の意向の把握に務め、行きたい場所や関係者を訪ねる等支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が実施する病院祭、盆踊り等での交流。社協が実施する障がい者スポレク交流事業及び町主催の敬老会へ参加し交流の場としている。また定期的に馴染みのスーパー等での買い物に出かけている。	事業所と地域とのつきあいについては、地域の自治会に加入し、運営推進会議の構成員である自治会長から、行事の案内があり、敬老会に参加し地域住民と交流を行っている。利用者は、朝食の食材の買い出しで、マーケットや肌着等の購入で洋品店を職員と訪れ、店主や店員と挨拶を交わす等顔見知りの関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の院長が「沖縄県認知症サポート医」であり、地域の保健医療、福祉に貢献している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者との情報交換により、町主催の敬老会及び社協主催のスポレク交流事業に参加する等サービス向上に生かすことができた。また災害時の避難訓練等における意見交換をし、自治会の避難訓練へ法人として参加した。	運営推進会議を活かした取り組みについては、会議は年6回開催され、利用者、家族、行政職員又は地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、自治会長がほぼ参加し、災害時における関係機関との連携についての話し合いが行われている。議事録や外部評価結果が公表されているが、事故報告等が行われていない。	運営推進会議の中で事故やヒヤリハット報告が行われていないことから、問題解決に向けてその経過を報告し、委員から意見を聞くなど事業所の透明性が求められる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当ホームの現況を報告することにより、担当職員からの情報等を活用している。地域包括支援センターからの入所相談、困難事例相談等で連携を図っている。	市町村との連携としては、運営推進会議の中で、行政担当者とは大規模災害時の在宅高齢者受入れや、乳幼児・障害者・医療器具使用者の受け入れ先との連携について、協力関係を築いている。ファックスでの研修会の案内や、生活保護手続き等アドバイスを得て協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針及びマニュアルを正しく理解する為、勉強会を開催しその徹底に努め、利用者の尊厳と主体性を尊重し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践については、身体拘束をしないケアの方針の下、契約書に明示しリスクについて家族へ説明をし、拘束のないケアを実践している。職員全員が委員となり、3か月に1回身体拘束等の適正化について、マニュアルを整備し会議を行い記録に残している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで高齢者虐待に関する知識を身に付け、グループホームサービスの「コンプライアンスルール」に沿った介護ができるよう職員に徹底を図り、虐待のない介護を実践している。	虐待の防止の徹底については、虐待防止コンプライアンスルールや、スピーチロック等の勉強会を職員全員が参加し、3か月に1回開催している。外部研修でストレス自己診断チェックリストとその対応についての研修に参加している。管理者は、職員がストレスを抱えないよう日頃から話を聞く機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会での制度の理解や必要性について学ぶ機会を持っている。また足りない所は法人の地域医療連携室の支援が受けられるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容(重要事項説明書等)の変更があった場合は、文書による説明と同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、匿名での意見等を受け付けている。家族会及び運営推進会議で話せる機会を作っている。また家族の面会の際には、職員と気軽に話し合える場として捉えている。	日々の会話の中で利用者から要望を聞き、家族とは面会時や運営推進会議の中で、意見を聞く機会を設けている。年2回家族会を開催し、その中で看取り介護についてのアンケートを実施し、半数以上の家族が看取りを希望している事から、勉強会や研修会を実施し、看取りが行える支援体制作りに取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。また介護事業検討委員会やサービス向上委員会、計画伺い書等での検討を行うことができる。	運営に関する職員意見の反映については、サービス向上委員会等の会議の中で意見を吸い上げミーティング時や申し送り時に、管理者は職員の意見を聞き、誤飲の危険がある利用者の水分補給の為にイオンサポートゼリーを、医師に相談し、状態に合わせて利用している。備品の購入や修理については物品購入リストに記入し、服薬ケースや血圧計の購入が行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員登用制度による正職員への登用や、やりがいのある職場環境整備に努めている。介護保険制度に伴う処遇改善等も上位の加算要件をクリアしており、常に職員への配慮を行っている。	就業環境の整備としては、法人が作成した就業規則が整備され、資格取得や資格手当等の支援があり、正職員登用制度が実施されている。職員は更新時や年1回事務局長と面談が行われている。全職員健康診断を年1回、夜勤者は2回行われている。3か月に1回バーベキュー大会やボーリング大会等の懇親会を開催し職員がストレスを溜めない環境作りに取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会を受講できる機会を確保している。また上位の資格取得のための研修の受講料等の一部を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会が実施する研修会等での交流や情報交換等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳しいアセスメントを行い、ご本人の思いをくみ取り、訴えの傾聴や声掛け、環境整備をする等の工夫や家族にも協力してもらい安心感が得られるよう、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞かせて頂き、お互いが協力してより良い支援ができるよう関係づくりに努めている。また、利用者の現況を報告する事により信頼関係づくりに取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の思いを伺い、各種サービスの活用等、必要に応じた支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じた出来る事を一緒に行う事でお互いの関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでの様子をご家族に伝え、できる範囲で協力を頂き、支援を得ながら共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週教会への外出、馴染みの理髪店での散髪、馴染みの店での買い物、盆・正月での外出支援等、関係が途切れないような支援に努めている。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者は、家族と毎週教会へ外出したり、職員とプロ野球キャンプ地に、出掛ける支援を継続して行っている。馴染みの美容院へ出掛けるついでに、友人と外食をする利用者や家族と連携し、お盆や正月に帰宅する利用者の送迎を行う等支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切に、利用者同士の橋渡しになれるよう心掛けている。みんなの目標「ちゅいしいーじしいーじ」(互いに助け合う)ができるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方及びご家族との関係を維持し、退所先への訪問や情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話等の中からその人の思いを察知することに努め、一人ひとりの希望に添えるよう努めている。	思いや意向の把握については、アセスメントとして、本人や家族から、思いや意向について直接聴き情報を得ている。発語が困難な利用者には五十音表のボードを使用する等工夫し、把握に努めている。目の不自由な利用者には新聞の読み聞かせを行い寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、医療機関、介護施設等から得られた情報を元に本人の思いを理解し、安心して生活ができるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は申し送りでも確認され、心身状態においても常に注意を払い把握している。また本人ができることはないか、一人ひとりの有する力を把握するよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期ミーティング及び日々の申し送りにおいて、ご本人やご家族の思い、職員の意見等を踏まえて一人ひとりの介護計画に反映させている。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、介護計画は長期目標を半年、短期目標を3か月とし、職員は介護計画案と、モニタリングを行い、ケアマネージャーが確認し、3か月に1回評価を行っている。職員は、日頃の会話の中から、利用者の希望する散歩コースの選定やカラオケ等を取り入れ、全職員で計画の見直しを行い支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫があれば、介護記録や申し送り、伝言ノートで情報の共有を行ない、定期ミーティングでの確認を踏まえてケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々希望する内容に応じ、各種情報提供に加え、法人の専門分野の活用・支援を取り入れる柔軟な対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議及び関連する行政施設等からの情報を集め、地域の行事等に参加したり、近隣の公共施設等を利用している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、定期受診を行う病院の他、馴染みの病院へ受診も行っている。受診時の調整、ご家族との連絡・協力を受けながら、スムーズに受診できるよう支援している。	かかりつけ医の受診支援については、利用者は全員、事業所と同一の法人の医師がかかりつけ医であり、受診時は家族と職員が同行している。他科受診の際の受診前後の連絡や処方薬等の情報伝達は直接口頭で行っている。定期的に健康診断等を行い適切な健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整備しており、週2回の訪問看護で健康状態、心身状態の把握・管理を行っている。状態の変化があった場合は、相談、助言、指示を仰ぐことが可能であり、利用者の健康管理、看護支援体制が整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、職員が見舞いに行ったり、ご家族との連絡をとり本人の状態把握に努めている。また病院の退院前のカンファレンスにも参加し関係者から情報を得て、職員全員で退院後の対応についての検討も行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護についての家族及び職員アンケート結果も踏まえ、重度化及び終末期における対応を理解しスムーズな支援が行えるようにする。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援としては、看取り介護についての家族・職員アンケートをとり、重度化及び終末期にむけた対応が可能になるよう検討中である。利用開始時に利用者と家族に対して看取りの指針を説明している。利用者の状態の変化に応じて必要な時期が来れば、同意書をとる体制をとっているが、今年度新たに内容を検討・整備する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるよう、法人内で実施する心肺蘇生法やAEDの勉強会に参加している。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(消防訓練)を実施し、日中及び夜間の想定で実際に入居者の避難誘導を行っている。地域の自治会主催の災害時避難訓練に法人から参加し協力体制を築きつつある。また法人併設施設からの応援体制の確認を行い協力体制を構築している。	災害対策については、昼夜を想定した消防訓練を年に2回実施している。キッチン脇に避難訓練の写真を掲示し、避難経路や手順を職員が確認できるように努めている。近隣に住む法人職員を緊急時の連絡網に取り込むことで、地域との連携をはかっている。事務室内に5年保存可能な水を含め、災害時の備蓄を準備しているが、利用者及び職員の三日分には足りない分量であった。熱源無しでも飲食可能な食糧の備蓄を検討することに期待したい。	災害時の備蓄は手近にあることが望ましいので、事業所内に利用者及び職員の三日程度の食糧の備蓄の検討が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、常に本人の気持ちを大切にすよう、「丁寧な言葉で、すてきな共感介護」を合言葉に、言葉使いや態度、表情等に気を付け対応している。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、利用者の言葉や表情等で意向をくみ取り、穏やかでゆったりとした言葉掛けを心がけている。居室に入居する際には必ず声をかけたり、女性利用者の居室には男性職員は入らないように気をつけたりする等、利用者の羞恥心に配慮しつつ、本人の人格を尊重できるようなさりげない支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせ、時間をかけて接する事を基本にご本人に選んでもらう場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう、時間的に余裕を持って対応するよう心掛けている。たとえば、午前中の入浴を拒否した場合は、本人にどうしたいか良く傾聴し、午後に変更したり翌日に振り替えたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物で本人のお気に入りの服の選定や化粧等を施し、その人のおしゃれ支援をしている。散髪は、ご家族と出かけたり、馴染みの理容師等に來ていただき支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好等の把握に努め、献立を考えたり、調理や器の工夫を行っている。食事の一連の行動の中で何かできるものはないか。できることがあればお願いし、見守りながら一緒に行っている。また、月に1回程度外食に出掛け、好きな物を摂っている。	食事を楽しむことのできる支援として、法人の管理栄養士が事業所に立ち寄り、年に1度嗜好調査アンケートをとる等、利用者のニーズの把握に努めメニューを作成している。ひーじゃー汁(山羊汁)や回転寿司・天ぷら等ドライブを兼ねた外食の機会が多い。外食の際にはミキサー食に対応してくれる店舗等を選んだり、時には店舗にミキサーを持ち込み、ミキサー食にして利用者の食べる意欲を維持できるような支援を心がけている。利用者の好みに応じて食事内容を変え、職員も一緒に食事をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量チェック表にて、こまめに水分補給を行ったり、本人の体調や嗜好に合わせ栄養士にも相談しながら栄養バランスを考慮した支援に努めている。水分摂取量については、一人ひとりの一日の必要量を計算し、それを目標に水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け、義歯洗浄の支援、個々の状態に合わせたケアを行っている。また必要に応じ、ご家族へ歯科受診を依頼することもある。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し、トイレにて排泄ができるように本人の仕草や表情に目を配りながら声掛け、誘導、必要時の介助を実施している。特にリハビリパンツから布パンツへの移行に努め清潔が保てるよう力を入れている。	排泄の自立支援については、排泄の際に、利用者のできることはできるだけ本人が行うように、ゆったりと声かけし、利用者の残存機能が発揮出来るよう支援に努めている。利用者のなげない仕草の中の排泄のサインを見逃さずトイレに誘導することで、昼間はほぼ全員が、布パンツとパット使用で過ごせるようになっている。夜間は利用者の良眠を重視した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な野菜を献立に多く取り入れ、こまめに水分補給を促している。またヨーグルト、プルーンジュース、きなこ牛乳などの便秘に効果のあるものを利用して取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を実施しているが、ご本人の希望に合わせて時間をずらす等の対応ができるようにしている。異性介助を嫌がる利用者は、介助者を変える等の処置を講じている。	入浴を楽しむことができる支援としては、週3回の入浴と同性介助を基本とし、入浴を嫌がる利用者には耳栓の使用や、入浴前に珈琲を飲むことで落ちつく等職員間で情報を共有し、支援に取り組んでいる。冬場は浴槽を使用する利用者もいる。残存機能を維持し、利用者がゆっくり身体を洗ったり、好みの湯加減でシャワー浴が出来るよう入浴介助を行っている。入浴後の着替えを自分で選べるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で身体を動かす時間を作り、昼の休息等、生活リズムを安定させることにより安眠につながられるよう支援している。各居室には、湿度、温度計、エアコンを設置し快適に過ごせる環境管理を行っている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書ファイルを全職員が目を通せる場所に備付け、活用している。利用者への服用の際は、この薬が本人のものであるかのダブルチェックを実施した後に服用させている。また、処方薬の変更等は、申し送りを行い状態観察を実施している。	服薬支援としては、利用者の薬の説明書をファイルし、服薬している薬の内容を職員間で把握し共有できる支援をしている。服薬支援に関するマニュアルが整備され、利用者ごとの薬が一括して保管できるような、大きめのメッシュケースを準備し、個々の薬の確認ができるように工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の思いを尊重し、できる事は負担のないよう意欲を持って行なえるように、共同生活の中で役割を持って頂き本人の楽しみ事を増やしていくよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を取り入れ、個別の買い物、ドライブ等、月に一人2~3回は外出できるよう支援に努めている。	日常的な外出支援として、敷地内の庭への散歩をケアプランに取り入れ、日常的に外出できる支援をしている。財布を携帯し、隣接する法人病院の売店におやつや日用品を買いに行ったり、事業所前の自動販売機に好きな飲み物を買いに行ったりする利用者や週に1回近所のスーパーへ食材購入に行くのを楽しみにしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の意向を伺いながら、相談、確認をし、お金を所持してもらっている。買い物の際は、ご自分の財布から支払い、お小遣いノートへ記入してもらい自己管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には、いつでも電話のやり取りができる環境にある。また年賀状及び暑中見舞いなどのやり取りができるよう支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、温度・湿度に気を付け利用者が不快を感じないような設定にしている。生活環境については、利用者の目線に合わせた対応に心掛け、庭の植物や壁の掲示物等、季節感を感じられるよう工夫している。利用者が行き来する廊下には活動状況の写真を掲示、食堂には利用者が手工芸で作成した物を掲示している。	居心地のよい共用空間づくりとしては、利用者は、ダイニングキッチン奥のリビングで、自分の好きな沖縄芝居や歌手のビデオを楽しむことができる。リビングにはゆったりしたソファが置かれ、ひとりの時間をくつろぐことが可能である。玄関脇のベランダには小さな庭があり、ゴーヤーの収穫やグリーンを楽しんだり、椅子に座って屋外の空気を楽しんだりする利用者がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月14日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや椅子の設置、庭のベンチでくつろげる場所を確保している。利用者には、本人の判断で好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用するものについては、ご本人及びご家族と相談しながら使い慣れたものを使用している。各居室においては、個々の趣味や家族写真を貼り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	心地よく過ごせる居室の配慮については、大きめの姿見が設置されている居室には、聖書や使い慣れた英語の辞書や三線、米寿祝いの額等、利用者らしい馴染みの品が持ち込まれている。家族の協力を得て加湿器を全居室に設置して、インフルエンザ予防や利用者の皮膚の乾燥予防などに役立てている。居室内の洗面台を布で目隠ししたり、やや暗めの豆電球で明るさを調節したりして利用者の希望に添える支援を心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全に配慮され手すり等も設置され、行動の妨げがないように工夫している。また掲示物については、本人の馴染みのある言葉を使用し、できるだけ本人がわかるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム オアシス

作成日 : 平成 30 年 11 月 19 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	法人全体としては、5年保存可能な水を含め、災害時の備蓄を準備しているが、事業所内には利用者及び職員の3日分には不十分な分量しかない。	事業所内に、常に利用者及び職員の3日分以上の十分な水や食料を確保する。	備蓄となる商品の検討を行い、保管場所確保及び使用方法、期限管理等をマニュアル化し整備していく	6ヶ月
2	47	服薬支援のマニュアルが更新されていない	現場担当者が分かりやすい現在の運用マニュアルにする	現在の服薬支援の運用にあったマニュアルを整備し職員間でのレビューを行う	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。